

2005/12/22

## 「生活塾の普及促進に関する研究会」報告レジメ

## 「シニア世代」—年長市民が

## ボランティア・NPO活動に参加するために

東京ボランティア市民活動センター

所長 山崎美貴子

## &lt;はじめに&gt;

本格的に団塊の世代がリタイアし、地域での暮らしを進めてゆくに当たり、その選択肢の一つとして、NPO・ボランティア活動に参加したいという人々がボランティア市民活動センター等の中間支援組織の相談の窓口を訪れたり、講座に参加する高齢者は増加してきている。

(週間ダイヤモンド 2005年12月24日号)

年長市民—シニア世代がボランティア・NPO活動の担い手として、活動のきっかけ作り、活動への積極的な参加に至るまでボランティアコーディネーターはどのように支援しているのか、またどのような課題があるのか、それらを解決するためにどのような支援が必要かなどについて現場の視点から述べてみることにしたい。

## &lt;ボランティア活動者は増加している&gt;

2002年全国ボランティア数は740万人1980年160万人であり、6.4倍

活動者は男性が女性の約30%

構成割合は定年退職層は24.5%最も多いのは仕事を持っていない主婦38.1%はであり、定年退職者第2番目に多い層。

子ども、子育てに関する活動は個人で32%、グループで27%

(配付資料 ボランティア活動の現状より)

ボランティア活動の経験者は60-64歳26%、65-69歳33%参加意欲はそれぞれ71%と56%で高い。

(内閣府国民生活局2000年調査)

## &lt;活動を進めるに当たって&gt;

1「第2の現役世代」を生きるために・・・シルバーボランティアからシニアシテ

山崎 美貴子 1-2005/12/22

イズンとして、「高齢者」に対する思いこみを捨てる。シニアだから出来る活動領域を開拓

する。前期高齢者と後期高齢者はことなる。高齢期は個人差があることに着目。生活年齢でははかれない。実年齢よりずっと若々しい人が増えている。心身共に健康なシニアの割合が増えている。専門能力のある人、誠意いっぱい生きてきたひとりひとりが個性的。

## 2 シニアとボランティアの出会いきっかけづくり

入門講座に参画をし、活動の場の提供、情報提供、アフターフォローまで。様々な選択できるプログラムを提供

例 「お父さんお帰りなさいパーティ」、身の回りの自立のために「生き生き料理教室の連続講座」、「男性だけのグループの立ち上げ」「会員相互の親睦を図る、各種の活動を試行的に参加する等止まり木」。「モト何々を生かした活動団体の立ち上げ自宅を開放したお話し聞き聞かせ文化の伝承など」

## 3 「自分探し」の旅の支援

- ・ ライフプランづくりの手助け。今までの自分を振り返る、これからの人生設計をする、社会参加に関する条件の自己点検
- ・ 情報発信ツールの開拓
- ・ 気軽に集えて、立ち寄れるサロンづくり
- ・ 相談の背景にあるものを考える
- ・

## 4 退職者で特にアドバイスが必要な人

- ・ 退職＝地域に放り出された人で何をして良いかわからない
- ・ 地域に周りに関わりがない。→
- \* ボランティアにこだわらずまず社会とかわりをもつ
- \* 現役時代のストックを生かす
- \* とりあえずグループを作る
- \* メンバー募集の情報をキャッチ
- \* 希望する活動団体やサークルがなければ自分で作る

## 5 シニアの特性を生かした受け皿の開拓

- ・ 子どもの祖父母やくとして・・・自宅開放、児童館、図書館、学校の空き教室、保育所、児童施設、父子家庭
- ・ 高齢者同士や病人の話し相手・・・施設、在宅
- シニアならではの視点を生かした提案・・・病院、保健所

長年培った経験、知識を生かす・・・美術館、博物館、図書館、水族館、会計等の

- ・ 専門的ストック
- ・ 人生の師匠、人間関係調整役・・・地域にリーダー、ボランティアグループ、NPOの立ち上げ支援

#### < 新しいかたち >

- ・ ボランティア活動に関わりながらその活動をNPOの設立、運営に参加しさらに地域の活動の受け皿、まちづくり、街おこし、多世代交流、協働のプラットフォームの構築、企業や行政との架け橋となり始めた活動も生まれてきている
- ・ ボランティアNPO活動は活動者と利用者との双方向関係が生まれ、特に多世代交流活動は有用感を活動者が実感し、もう一つのライフスタイルを構築する団体も生まれている。
- ・ 生活塾構想に近い活動を展開している中野区の例をみると
- ・ ① 活動者と利用者とのコーディネート業務を担当するボランティアコーディネーターが存在している。
- ・ ② 活動の初動期に必要な物品や場所を整える為の若干の資金を提供している。
- ・ ③活動者の横の繋がりが出来ており、お互いの交流を通して支え合いの仕組み、研修などの場がボランティアセンターのよって提供されている。

活動が継続しやすい条件を整え活動のループが出来るような支援が必要と思われるので、それぞれの地域の特性を生かしたいくつかのモデル事業を試行的に展開してみることがもともとめられよう。